

No.206

林業ぐんま



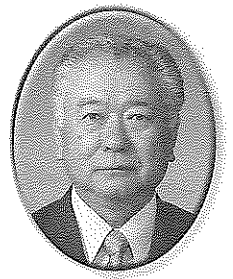
目次

会長、環境森林部長挨拶	1
林政情報	2
・平成三十年度群馬県建設工事表彰	
・林業労働力確保への取り組み	3
・森林・緑整備基金の取組み	
・オールぐんま暮らしフェア2018	
林業就業相談	
各地のたより	5
(渋川) 林業専用道「高源地線」の開設で進む効率的な搬出間伐	
(西部) 烏川流域(源流部) 森林整備推進協定技術交流会を開催	
(藤岡) 五感をフル活用森林セラピー体験	
(富岡) 民国連携森林整備推進協定の締結(南牧村)	
(吾妻) 間伐技術研修会を開催(利根沼田) 県内初開催	
森の教室IN群馬県(桐生) わたらせ森と木のまつり	9
地域を担う人	
朝比奈幸太さん 阿部 愛生さん	
園部 勝明さん 中川 能徳さん	11
森の談話室	
・森林資源の活用で村内循環型社会を目指す	
上野村長 黒澤八郎さん	12
読者からの投稿	
・森林と木材	
・富岡製糸場の建築材料と妙義神社トピックス	14
・第四十三回群馬県児童生徒木工工作コンクール	
高島農林水産副大臣の県内視察が行われました	
お知らせ	
きのご品評会	
群馬県農林水産業関係機関成果発表会	

新春

2019

群馬県林業改良普及協会



群馬県林業改良普及協会会長

大手 治之

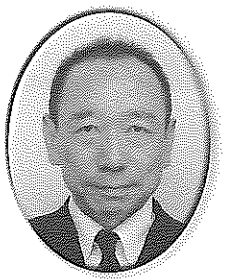
新年明けましておめでとうございます。皆様には、日頃から本会の運営に格別なるご支援、ご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

私こと、昨年五月の総会で会長に選任されました。もとより微力ではありますが本会の発展に全力を尽くしてまいりる所存ですので、前任者にならぬご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

さて昨年も大阪や北海道の地震、度重なる猛烈な台風の襲来など大きな自然災害が頻発した一年でした。災害により亡くなられた方々や被害にあわれた皆様方に、心からお悔やみとお見舞いを申し上げます。幸い、本県では大きな被害はなかったものの、災害に対する不測の備えの重要性を痛感した次第です。特に、山地災害の防止には、治山事業とともに、多面的な機能を高度に発揮する森林の整備に向けた継続的な取り組みが不可欠であると思っております。国においては、本年四月から新たな森林経営管理制度がスタートします。また、本県では、「ぐんま緑の県民税」事業の平成三十一年度以降の継続が決定されています。これらの取り組みは、健全な森林の整備・保全を通じ、県民の安全・安心の確保、地球温暖化の防止等に大いに寄与するものと大変心強く、関係者の皆様のご努力に対し深く敬意を表する次第であります。

群馬県の素材生産量は、平成二十八年には三十万、二十九年には三十四万二千立方メートルに達し、三十年以降も増加傾向にあると聞きしています。これは、県内二ヶ所の県産材センターの順調な運営及び昨年三月に本格稼働した前橋バイオマス発電所による木材需要の拡大、併せて山元における集約化や高性能林業機械を利用した効率的な間伐システムの導入など、川上から川下に至る関係者の積極的な取り組みの成果であり、「群馬県森林・林業基本計画」の目標達成に大きな期待を寄せているところであります。本会といたしまして、全国の優れた事例や最新の林業技術・生産システム等を皆様にご紹介し、また普及することを通じ、本県林業の発展に少しでもお役に立てればと願っております。

結びに、皆様のご健康と益々のご活躍、そして今年が皆様にとって良い年でありますことをご祈念申し上げます、新年のあいさつとさせていただきます。



群馬県環境森林部長

須藤 雅紀

新年あけましておめでとうございます。群馬県林業改良普及協会の皆様におかれましては、輝かしい新年を迎えられたことと、心からお慶び申し上げます。

昨年は、平成30年度税制改正大綱において、森林環境税（仮称）及び森林環境譲与税（仮称）の創設が決まるなど、我が国の森林・林業を支える仕組みが変わる節目の年となりました。

県内においては、素材生産量の更なる増加へと繋がる前橋バイオマス発電所の本格稼働や県産2×4材の利用拡大に加え、フェンス等に利用される杉2×4材の北米輸出など「林業県ぐんま」の実現に向けた取組が大きく前進した年となりました。

群馬県森林・林業基本計画に基づき、計画目標である年間素材生産量40万m³の達成など、引き続き「林業県ぐんま」の実現に向けて取り組みを進めて参りますので、皆様の御協力をお願いいたします。

さて、平成31年度から、森林環境譲与税（仮称）の譲与が開始され、林業の成長産業化の実現と森林資源の適正な管理の両立を図る「森林経営管理制度」の運用が開始されます。この制度は、森林所有者の経営管理の責務を明確化し、自ら森林を管理できない場合は、市町村を介して意欲と能力のある林業経営体へ集積する制度で、これまで手入れができなかった森林の整備等に取り組み市町村を支援して参りたいと考えております。

また、本県のこの産業につきましましては、昨年、放射性物質の影響で出荷自粛を余儀なくされていた原木乾いたけ生産者2名の出荷自粛を解除することができました。関係者の皆様の御尽力に感謝申し上げます。きのこ産業は本県の重要な産業であることから、安全・安心を確保しながら、生産基盤を強化できるよう取り組みを進めて参りたいと考えております。

本年も市町村や関係団体の皆様と連携し、本県の林業、木材産業及びきのこ産業の発展のため努力して参りますので、皆様の御理解と御協力をよろしくお願い申し上げます。

結びに、皆様の御活躍と御健勝を祈念申し上げます、新年の挨拶といたします。

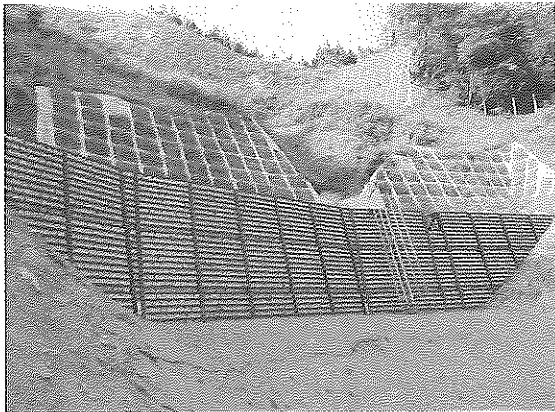
林政情報

平成30年度 群馬県建設工事表彰

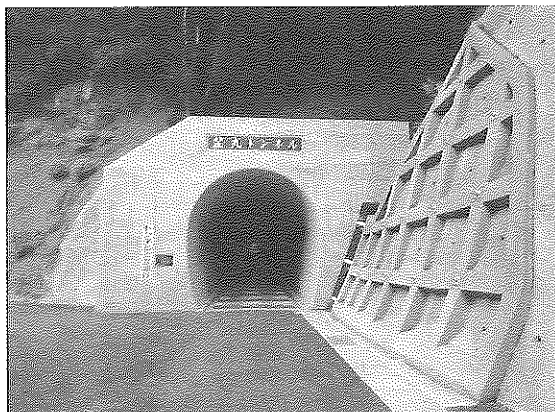
群馬県建設工事表彰は、県民の生活及び経済活動等の基盤となる社会資本整備を適切に推進するため、県が発注した建設工事等について優秀な技術により施工した建設業者等を表彰し、品質の高い工事を確保するとともに、建設業等の発展及び施工技術の向上に資することを目的として、毎年、知事表彰、部長表彰、所長表彰を行っています。

環境森林部発注工事に係る平成30年度の表彰は、平成二十九年度に完成した契約金額五〇〇万円以上の対象工事二百七十五件の中から、それぞれ品質管理・出来形・出来映え等の審査基準により、各審査会で厳正な審査が行われ、知事表彰四件が九月二十八日、部長表彰七件が十月五日、所長表彰六十一件は各発注事務所の表彰式で受賞の栄誉に輝きました。

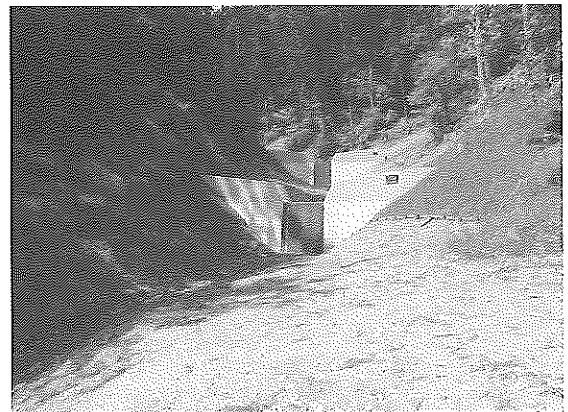
受賞された皆様にご心よりお祝い申し上げます。今後益々の御研鑽をお願いいたします。
(森林保全課)



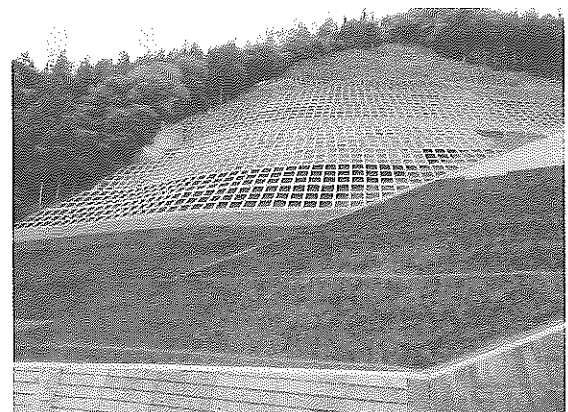
①北群馬郡吉岡町上野田(上野田)



③多野郡上野村 住居附線(トンネル工事)



②安中市松井田町新井(西天神)



④多野郡上野村野栗沢(向山)

平成30年度 群馬県建設工事表彰一覧表(知事・部長表彰)

1 知事表彰 4箇所 6社

施工者	技術者名	事務所名	写真番号
勝野建設(株)	勝野 政和	岸 克己	渡 川 ①
株式会社 荻原工業	荻原 哲也	石井 雅人	西 部 ②
佐田・田畑・黒澤 住居附線(トンネル工事)JV	上塚 三幸 黒澤 英紀 富澤 博邦	飯塚 敏之 大野 寛 西沢 英昌	藤 岡 ③
株式会社 塚木工務店	塚本 定夫	佐藤 知久	藤 岡 ④

2 部長表彰 7箇所 6社

施工者	技術者名	事務所名
黒澤建設(株)	黒澤 英紀	黒澤 清美
黒澤建設(株)	黒澤 英紀	白井不二夫
上毛緑産工業(株)	高橋 範行	木多 陽一
市川工業(株)	市川 芳江	新井 慎一
南波建設(株)	南波久美子	篠原 滋一
塚田建設(株)	塚田 安秋	青木 正人
岡村工業(株)	岡村 浩	田中 孝治
		利根沼田

へ の 取 り 組 み

森林・緑整備基金の取り組み 林業労働安全衛生の向上に向けて

林業事業主の皆様、労働安全衛生の遵守が求められる中で、安全装具の充実、労働安全衛生の講習受講など、資金面で困りではないですか。

平成三十一年度には、労働安全規則正が改正され、チェーンソーによる伐木等作業を行う労働者への下肢を防護する保護衣の着用が義務付け（安衛則第四百八十四条の二）になる見込みで、事業主の責任が増しています。

林業現場においても、防護ズボン、安全ブーツ等の高機能安全装具を着用した作業が一般的に行われるようになってきました。作業員からは、「安全装具を着用した当初は、動きにくいと感じたが、なれると、問題なく作業ができ、逆に装具なしの作業は、考えられない」、「暑い時期は、防護ズボン等の着用は、大変だけど、安全には替えることができない」等の意見が聞かれました。林業現場における安全意識が確実に向上しています。

当基金では、森林の整備、林業労働安全衛生の向上、林業の活性化を図ることを目的として、林業事業主の皆様が安全装具や労働安全に係る資格取得等で負担する経費の一部を助成しています。

要望調査は、例年二月と九月に行っています。認定事業体及び過去に当事業を活用された事業体（一人親方を含む）には、その都度お知らせしております。また、基金のホームページにも掲載しています。

◎林業労働安全衛生の確保事業

一、高機能安全装具導入促進事業

従事者の労働災害防止の観点から、事業主が指定された安全性の高い装具を従事者へ支給した場合の購入経費の一部を助成しています。

助成対象者…林業事業主（一人親方を含む）

採択基準…事業主が経費を負担し、従業員

以下のもので支給した場合に限る

補助対象…年間従事日数百五十日以上

業労働者

対象品目…安全ズボン・安全ブーツ・高

視認上着・防振手袋・イヤマフ
付き高機能ヘルメット・安全

ベルト・充電式ファン付きジャ

ケット

補助率…経費の二分の一以内

その他…補助額は一事業体十五万円以内、

一人二点以内

二、資格取得支援事業

林業現場において必要な資格、安全に効率的な作業を行うための技術を取得させた事業主に対し、一部助成をします。

助成対象者…林業事業主（一人親方を含む）

採択基準…事業主が経費を負担する場合に

限る

補助対象講習…

・伐木等の業務に係る特別教育

・刈払機取扱作業安全衛生教育

・機械集材装置の運転業務に係る特別教育

・走行集材機械の運転業務に係る特別教育

・伐木等機械の運転業務に係る特別教育

・簡易架線集材装置等の運転業務に係る特別

教育等全二十種類の技能講習

・代表理事が必要と認めた技能講習等

その他…他の団体等が実施している助成

を受ける場合は、適用外

補助率…経費の二分の一以内、土木施工

管理技士及び造園施工管理技士

は八万円を上限

事業を有効活用して、林業労働災害を減らしていきましょう。

（問合せ先）

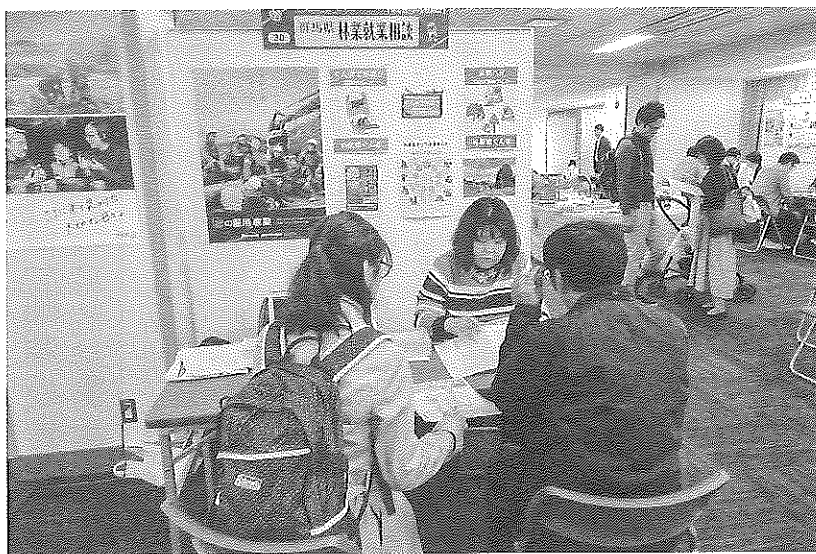
群馬県・森林緑整備基金総務・担い手支援課

☎027・386・5902

保 確 力 働 勞 業 林

2018 林業就業相談 オールぐんま暮らしフェア

群馬で暮らす魅力を楽しみながら知っていただき、群馬への移住を考えていただくきっかけづくりとしての場として、群馬県地域政策課の主催により、東京交通会館で毎年開催されている「オールぐんま暮らしフェア20



18」の林業就業相談ブースでの相談対応に十月二十一日に参加させていただきました。移住に当たっては、仕事探しが不可欠であるので、選択肢として林業を加えてほしいという願いのもと平成二十六年から今年で5回目の参加となりました。

参加当初は「定年後に群馬県へ移住して林業をやってみたい」といった、いわゆる「セカンドライフ」としての移住者として林業就業を考えているといった来場者がほとんどでしたが、徐々に状況が変化し、最近では二十〜三十歳代の若者や子育て世代のご夫婦がベビーカーを押しながら「林業って、どんな感じですか？」と相談にブースを訪れてくれることも多くなりました。

昨年度のフェア来場をきっかけに、東京都から片品村へ移住し、林業事業体へ就業した三十歳代のご夫婦は「仕事も生活も充実していて、毎日が楽しいです。林業の仕事は危険も多いので気を抜かず安全を心に刻み作業しています。これから夫婦の共通の趣味であるスノーボードの季節になるのでワクワクしています。」と話してくれ、たくさんの写真を送ってくれました。

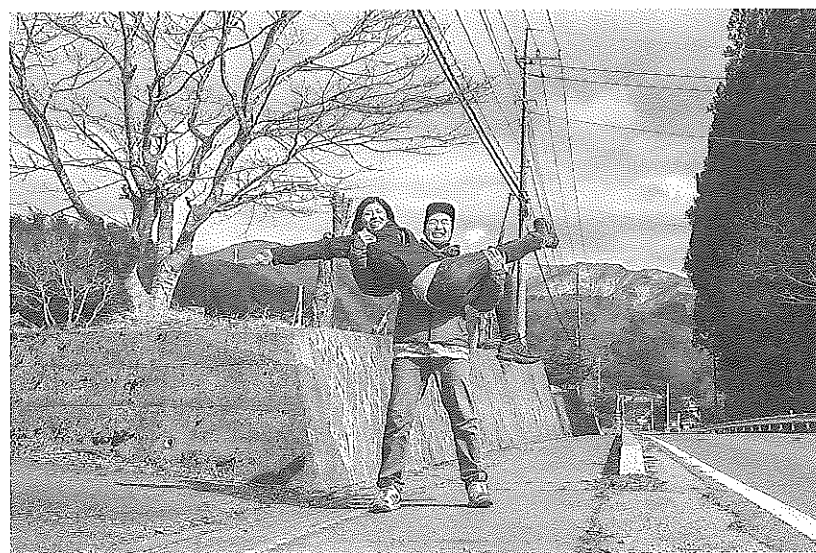
これからも、いろいろな林業就業相談の場において、多様な林業就業相談に対応できるように日々、研鑽を深めたいと思っています。また、(一財)群馬県森林・緑整備基金にて、

林業就業支援地域アドバイザーによる「林業就業相談」を毎月、第二・第四火曜日に実施しています。

相談者お一人お一人に、一時間以上の時間を取っての相談対応をさせていただいておりますので、相談に来られる際には、まずは、お電話にてご確認をお願いいたします。

(☎ 027・386・5902)

【林業就業支援地域アドバイザー 田村美恵子】



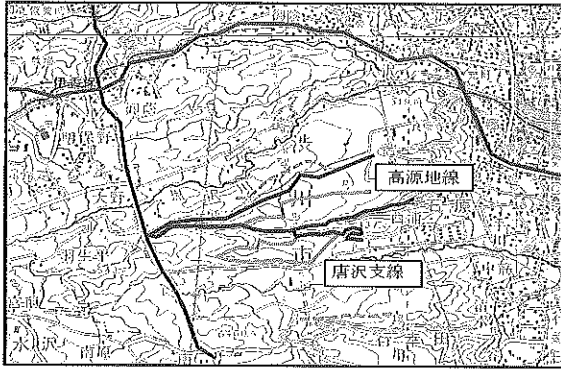
の便り。

林業専用道「高源地線」の開設で進む効率的な搬出間伐

渋川市石原地区は、榛名山の東麓に広がる地形が緩やかな丘陵地帯で、森林の9割以上をスギ人工林が占めています。このように経営条件が良いにもかかわらず、素材生産があまり行われてこなかった地域でした。

しかし、渋川広域森林組合が事業主体となった、林業専用道県内第一号となる「唐沢支線」が開設されたことにより、搬出間伐が急速に進みました。森林組合が、「唐沢支線」を中心とした森林経営計画の樹立と、林内に集中的な森林作業道を作設し、高密度路網を確保した結果です。

さらに石原地区の森林整備を進めるため、「唐沢支線」の北側に林業専用道「高源地線」が開設され周辺森林に、森林経営計画（認定面積34.84ha、森林所有者3



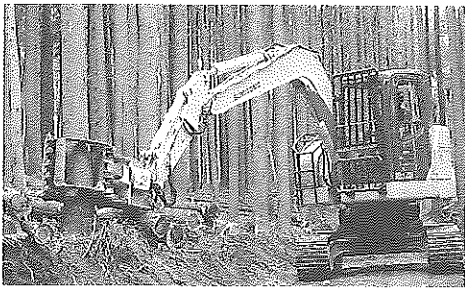
1名）を樹立し、現在、森林作業道の作設とともに搬出間伐が行われています。

「唐沢支線」周辺の搬出間伐では、平均約8㎡/人日の生産性でしたが、培った路網整備、搬出間伐の技術を踏まえ、「高源地線」周辺では、さらに生産性上がるよう、効率的な施業を検討しながら実行しています。

効率的な搬出間伐を進めるには、路網、機械、人材がうまくかみ合うことが大切です。

森林組合では、高性能林業機械の積極的な導入と現場職員に対する人材育成はもとより、ICTを活用した生産・労務管理にも試験的に取り組み始めています。

林業専用道「高源地線」を活用し、石原地区の搬出間伐が効率的に進むことを期待しています。



（渋川森林事務所通信員）

烏川流域（源流部）森林整備推進協定技術交流会を開催

平成三十年十月十日、磯村産業（株）、群馬森林管理署、西部環境森林事務所の三者による技術交流会を開催しました。

この交流会は、昨年締結した民国連携に伴う「烏川流域（源流部）森林整備推進協定」に基づき実施するもので昨年に引き続き二回目の開催です。

今回は、前半に群馬県森林組合連合会の高橋総務部長を講師にお招きし、「スマート林業による木材のサプライチェーンの構築を目指して」をテーマに、現在、森林組合連合会が進めている県産木材販売流通におけるコーデ機能の強化やICTを活用した生産・販売・流通の一括管理システムの検証などの取組についてお話頂きました。

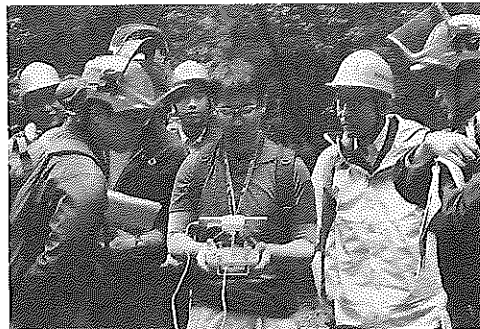


講演会

後半は、環境森林事務所員による「ドローンの撮影成果を活用した森林調査の省力化の実証について」の説明と班別に

よる現地演習を実施しました。

班別演習では、ドローンの撮影成果から樹高測定が可能か検証を行いました。ドロー



現地研修

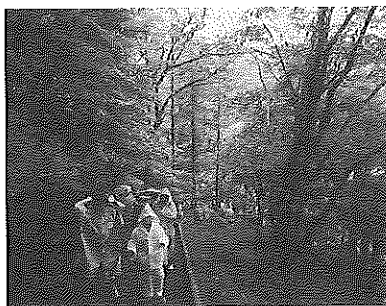
ンの撮影成果（写真）から対象木の倒れ込みの長さを測定し、「比高による写真像のズレの原理」を活用した簡易樹高判定表から読み取った樹高値と目視やブルーメライズ測高器での測定結果との比較を行いました。樹高判読を行った対象木は、その場で磯村産業（株）のフォレストワーカーがハーベスタで伐倒し、実際の樹高を測定しました。参加者からは、目視による誤差の大きさやドローンによる測定結果の正確性について多くの感想が出されました。また、参加者同士で積極的な情報交換が行われ、大変有意義な技術交流会となりました。

今後、それぞれが抱える課題や新たな技術に対する取組に工夫を凝らし、技術交流を図ってまいります。

（西部環境森林事務所通信員）

五感をフル活用 森林セラピー体験

藤岡森林事務所では、9月15日、藤岡市を中心に活動する「クレッシェンド」（特別支援学校に在籍又は卒業したお子さんをお持ちの保護者の会）のご依頼で、多野郡上野村で森林セラピー体験会を開催しました。



雨を肌で感じた森林散策

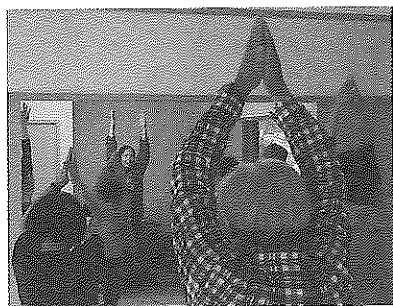
森林には不安や緊張、気分の落ち込み、怒りや心労を軽減させ、気持ちをしなやかにさせてくれる効果が医学的に認められています。今回は、セラピー基地がある上野村の豊かな森林の中で、深くゆっくり呼吸をすること、五感を研ぎ澄まし、全身を使って森林を感じることをテーマに、ストレスなどで過敏になっている交感神経を鎮める効果を期待した森林セラピーの実践を目指しました。

午前中は、ヴィラせせらぎから神流川沿いに整備されたセラピーロードをゆっくりと歩きました。蛇木の滝では、ゴウゴウと鳴る川音の迫力に最初はビックリしていましたが、落ちる水の様子はとてもダイナミックで、子

ども達を釘付けにしていました。

当日はあいにくの雨模様でしたが、カッパ越しに雨を感じる感覚はとて新鮮で、広葉樹を揺らして雨粒を落とす「トトロごっこ」では、何度も何度も歓声が上がっていました。午後はハンモック体験、ネイチャーゲーム、森林ヨガのアクティビティに挑戦しました。ハンモック体験では、2本の木に両端を縛った布に、子ども達が交代で横たわりました。子ども達は、最初は恐る恐る寝そべっていましたが、ゆりかごのように揺れると、とても気持ちよさそうにしていました。

カラマツ林で予定していたヨガは、雨のため自然体験施設「木森れ陽」に場所を変更して行いました。しっかりとお腹で深く呼吸をしたことで副交感神経が刺激されたのか、横になるポーズでは、心地よい寝息も聞こえてきました。



しっかり息を吸ってはいポーズ!!

参加者からは、「ココロからホっとする時間を過ごすことができました。」といったうれしい感想をいただきました。

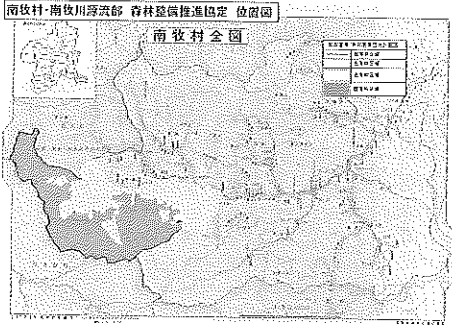
（藤岡森林事務所通信員）

の便り。

民団連携森林整備推進協定の締結（南牧村）

群馬県では、『林業県ぐんま』を実現するため、平成二三年度に「群馬県森林・林業基本計画」（平成二三年度～平成三二年度の十年間）を策定し、五年経過後の平成二七年度には、人口減少社会に対峙し、林業の成長産業化を目指して、計画の全面的見直しを行い、計画終期を一年間前倒して『林業県ぐんま』の実現に向けた取り組みを加速化する事としました。計画の数値目標である素材生産量年間四十万立方メートルを達成するため、間伐二千ヘクタール、皆伐三百ヘクタールの実施が必要となります。

これらを実現するためには、高性能林業機械による低コストな作業システムの導入や林内路網等の基盤整備が必要で、さらに効率的かつ低コストを実現する為には、施業区域を集約化し、効率的な路網配置



民団連携森林整備推進協定位置図

が重要となります。

当管内では施業区域の集約化の一方策として、国有林と連携した「森林共同施業団地」を設定することとしました。



協定調印式

林内路網や山土場等の基盤整備とその共同利用、ロットの拡大による有利販売を目指し、去る平成三十年十一月五日南牧村役場において、南牧村長、南牧村森林組合長、群馬森林管理署長、富岡森林事務所長の四者により「南牧村・南牧川源流部森林整備推進協定」を締結しました。

協定区域は、長野県境の森林千九百九ヘクタールで、三期十一年間で、間伐三八八ヘクタール、路網整備四七キロメートル、素材生産見込み量二万三千立方メートルの長期計画です。第一期分として、国有林内で、間伐五三ヘクタール、八、六キロメートルの路網開設を行い、素材生産量二千三百立方メートルを見込んでいます。

（富岡森林事務所通信員）

間伐技術研修会を開催

県で定めた森林・林業基本計画も目標年まで一年半を残すところですが、この計画における管内の数値目標の達成に向けて、六月に行った作業道作設研修に続き、第二弾として九月十九日に間伐技術研修会を開催しました。

当日は、午前中之条合同庁舎会議室にて「施業の集約化（間伐等）」を促進するために」と題して、主に間伐を促進するための集約化施業に関する講義を行いました。

午後は、東吾妻町内の間伐計画地にて、ピットリッヒ法による林分調査及び各種機器に



会議室にて講義



現地にて実習

よる樹高測定等の実習をしました。

間伐を促進するには、間伐した材を搬出利用し、その収益をより多く所有者に還元することが必要となります。そのためには、間伐作業に係る経費を削減することが重要です。

従来の集約化間伐は、所有者ごとに材を仕分け・管理して精算する方法で行ってきましたが、所有者へ有利な還元をするためには、一体的に作業を行い精算する方法が有効だと考えられます。そのためには、「面積はもとより材積・材質等による評価方法を確立していくことが重要であり、今回の研修会を開催しました。今後、評価の信頼性、公平性を高めるため、検証を重ねていく必要があります。

(吾妻環境森林事務所通信員)

県内初開催、 森の教室—N群馬県

十月三十日から十一月一日に県内三市町村のこども園で、県内初となる「森の教室」が、公益社団法人 国土緑化推進機構と群馬県緑化推進委員会の共催で開催されました。

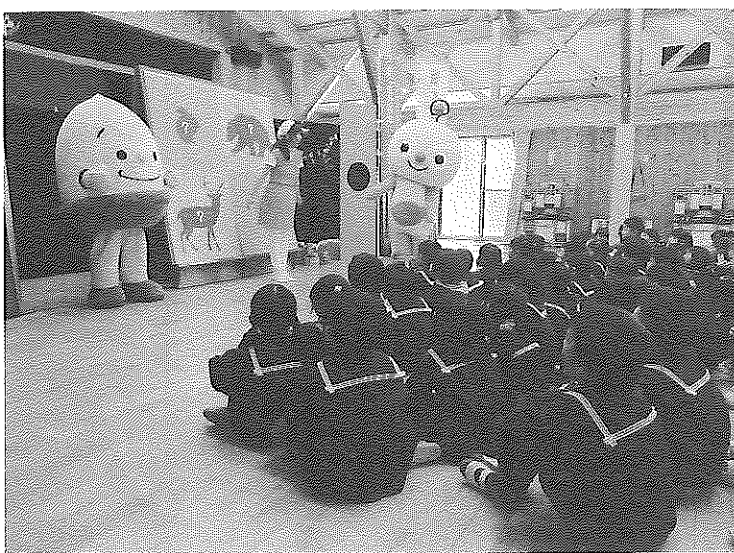
森の教室は①子供たちに「いのち」の大切さを教えるとともに、大人までの幅広い年代が参画する地域ぐるみの運動を目指す。②森づくりを通じて、未来につなげるべき我々の環境への意識づくりを、子供から家族、地域から社会へと広げる。③緑豊かな環境を次世代に引き継ぐために、途絶えることのない緑化運動を目指す。を目標に掲げ、平成二十四年六月から、ファミリーマートの応援を得て全国の保育園、幼稚園で開催されています。

十月三十日は、川場村の「かわば森のこども園」で開催され、園児約八十名が参加しました。川場村産木材が多く使われている森のこども園ホールに園児達が集まり、県緑化推進委員会鈴木事務局長の主催者挨拶や来賓挨拶等の後に、君たちに伝えておきたい日本の原風景「一枚の手紙」の朗読が行われ、自然との関わりや生活についてわかりやすい内容で伝えられました。その後、森のお姉さん、どんぐりくん、エコロンによる「どんぐりくんと森の仲間たちショー」が行われ、森の楽

しや不思議を学びました。その後、園庭に出て、森のおじさんから、どんぐりのお話を聞き、園児が集めたどんぐりをポットに蒔きました。今後は、園児が苗木を育てて植林が行われる予定です。約一時間半の内容でしたが、園児達は、楽しく森林を守り育てることを学んだことと思います。

三十一日は富岡市で、十一月一日はみなかみ町の「つきよのこども園」で園児約百六十名が参加し、同様に開催されました。

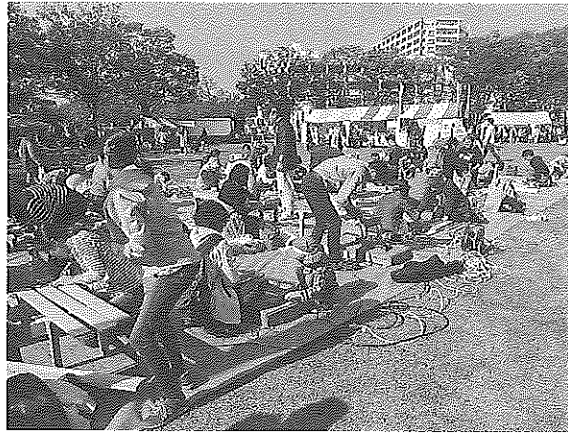
(利根沼田環境森林事務所通信員)



各地の便り

わたらせ森と木のまつり

去る十一月十一日(日)、桐生市稲荷町(新川公園)に於いて、「わたらせ森と木のまつり」が開催されました。朝から快晴に恵まれ、約三千百人と多くの来場者で賑わいました。この行事は、地域の十六の生産者団体が主



木工工作

体となり、消費者に対して木材やキノコ等地方産の林産物の普及と販売促進活動を展開することにより、地域の森林・木材・キノコ産業の活性化を図ることを目的に開催しています。今回で十七回目となり、地元行事として定着しています。

キノコの消費拡大を狙った、シイタケ、マ

イタケ、ナメコの入ったキノコ汁の無料配布には、順番待ちの行列が出来る程の人気で、午前、午後に提供しましたがすぐに品切れとなりました。

また、芝生広場では各種団体による木工工作、木のメダルづくり、リースづくり、竹馬づくり、各種クイズ、パネル展示などのほか、チェンソー・カービングなどの実演も行われ、活気に溢れていました。

さらに、キノコ、木製ベンチ、田舎まんじゅう、焼きまんじゅうなどの販売も行われました。

今回も沢山の皆さんに訪れていただきました。こういった取り組みが、地域林業の活性化や林産物の地産地消に繋がるものと期待しているところです。



木のメダルづくり

(桐生森林事務所通信員)

地域を担う人

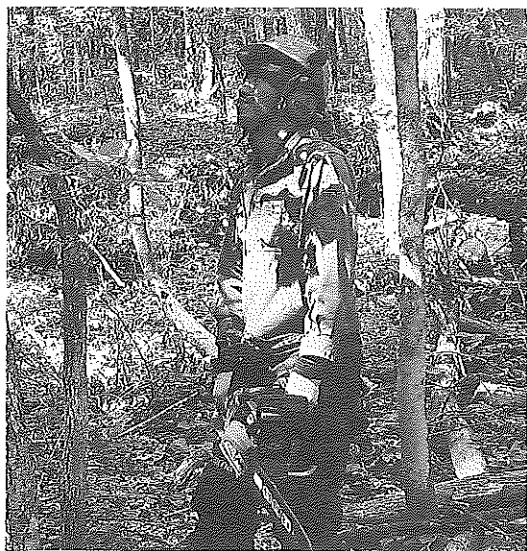
四万林業協業組合

朝比奈 幸太さん

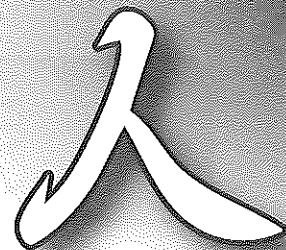
一 趣味 読書

二 今後の抱負

これからもケガの無いように安全第一を心掛けて作業をしていきたいです。緑の雇用で学んできたこと、先輩に教わってきたことを活かして仕事に励んでいきたいと思っています。



地域を担う



原澤林業株式会社

阿部 愛生さん

一 趣味

キャンプ、旅行、音楽鑑賞

二 今後の抱負

今までのOJTや緑の研修で得た経験を無駄にしないためにも、基本と初心を忘れずに安全作業を心がけていきたいです。



南牧村森林組合

園部 勝明さん

一 趣味 家庭菜園

二 今後の抱負

組合員や山主さんなどに山林を手入れして満足してもらえよう、また、3年間の研修において学んだ基礎をこれからの安全作業に十分役立てるように頑張りたいです。
怪我をしない、怪我をさせないをモットーによりしく願います。



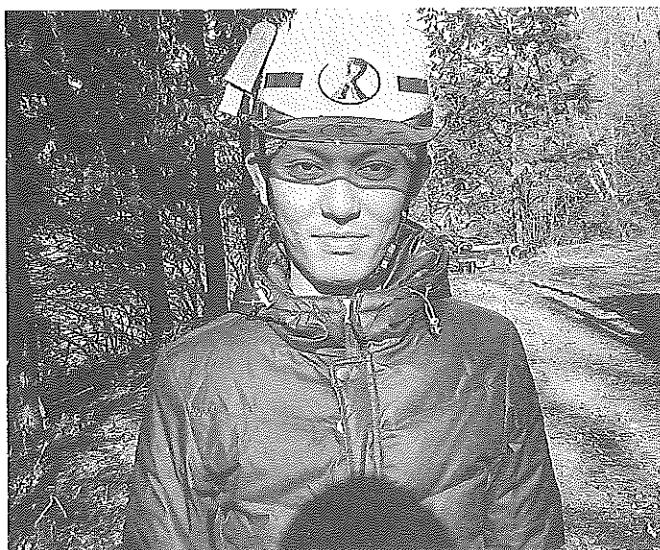
株式会社桐生林業

中川 能徳さん

一 趣味 パーベキュー

二 今後の抱負

3年間で学んだ事を生かし、会社の戦力になれるよう、安全第一で作業に励みます。

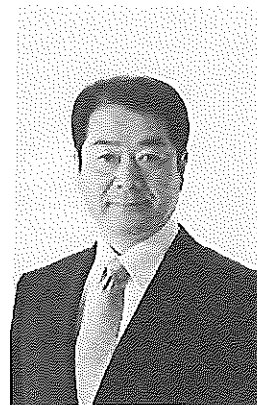


森の談話室

森林資源の活用で

村内循環型社会を目指す

上野村長 黒澤 八郎さん



上野村長
黒澤八郎さん

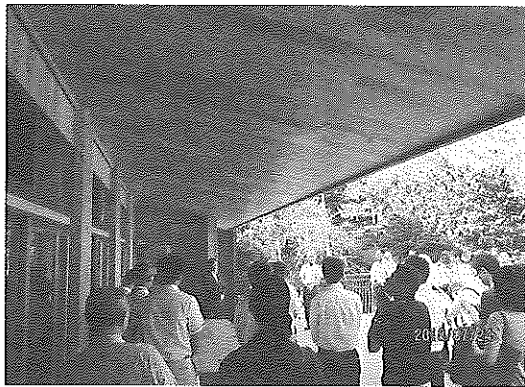
多野郡上野村は、人口約千二百人と群馬県で一番小さい自治体です。

今回ご紹介するのは、「挑戦と自立の村」として、豊富な森林資源を先祖からの大事な「授かりもの」として、無駄なく効果的に活用すること、安心して働くことのできる雇用を創出すること、資源だけでなく経済も循環させる仕組みをつくることに積極的に挑戦している上野村で、平成二十九年六月から村長を務める黒澤八郎さんです。

上野村ではこれまでも、若い世代を中心とした定住対策に熱心に取り組まれていて、平成に入ってからイターン率が人口の二十%を占めるまでになり、村内の様々な場面で活躍されているようです。その活躍の場の一つが、村の面積の九十五%を占める森林を活用したエネルギーの地産地消を核とした事業です。村内の森林整備、原木の搬出や運搬、柱材な

どを生産する製材所、木質ペレットの加工、ペレットを使った入浴施設、バイオマス発電所と、そこで生み出される熱や電力を利用したきのこセンターなど、森林資源を活用した関連事業で、波及効果を含めおよそ百五十人の雇用を生み、十二億円の経済を回すことができるとのこと。

こうした原料生産から収集・運搬、製造・利用まで、経済性が確保された一貫システムを構築し、地域の特色を活かしたバイオマス産業を軸とした環境にやさしく災害に強い村づくりが評価され、関係七府省（内閣府、総務省、文部科学省、農林水産省、経済産業省、国土交通省、環境省）から平成二十九年度「バイオマス産業都市」に認定されました。また、今年七月には、日本CLT協会の視



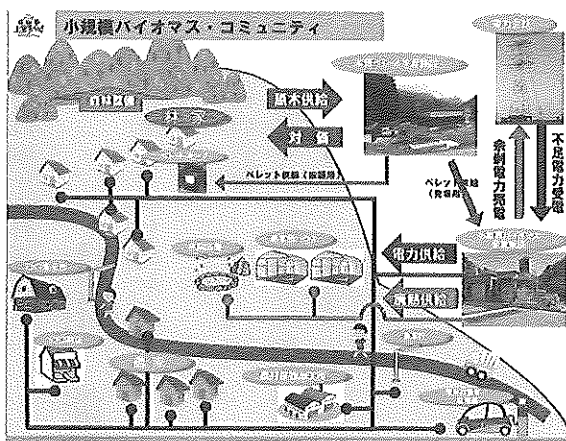
CLT協会のメンバーに自ら説明する黒澤村長

察ツアーを受入れ、平成二十九年度に村内の原木をCLTに加工して建設した観光案内所で、黒澤村長自

らが村の森林資源を活用したエネルギーの地産・地活と循環する村内経済のしくみなどを、解りやすく説明をしてもらいました。黒澤村長は、今後も引き続き、新たな雇用やビジネスを生み出し、それぞれを上げることで、活気あふれる村づくりを進めるとともに、豊富な森林資源を持続可能な資源として次の世代へつなごうと、とおっしゃっていました。

上野村の豊かな恵みを上手に活かす知恵と工夫と挑戦は、私たち林業関係者の憧れであり希望であり、またよいお手本でもあります。黒澤村長のますますのご活躍をお祈り申し上げます。

（藤岡森林事務所通信員）



上野村が取り組む小規模バイオマス

読者からの投稿 森林と木材

スギ、ヒノキ、カラマツ、マツ等は建築に多く利用されます。

植林の適地としては、一般的に「峰のマツ、平らヒノキで沢はスギ」と言われ、湿度が高い沢筋にはスギ、少し乾いた山腹部にヒノキ、そして乾いた峰はマツが良いとされています。日本は雨の多い地域ですのでスギの適地です。そのため戦後、全国各地でスギ、ヒノキを主体とした植林が進められてきました。

なかでもスギは、北海道南部から九州まで植林され、造林面積が最も多い樹種です。スギの天然林としては秋田スギが有名で、樹齢数百年のスギは、建築材のほか食器や工芸品等にも利用されております。

ヒノキは、材質はスギよりも少々堅くて強度も高く、木肌は艶やかで美しいので高級感ある建築材として好まれ、スギに次いで多く植林されてきました。しかし、成長はスギよりも少々遅く、枯枝は長年落下しないので、枝を適時に伐り落さないと節が多くなり、木材としての利用価値は下がります。

その植林木が成長し、伐採して利用する時期を迎えています。植林された当時に比べて材価が著しく低下したため、放置され荒廃した人工林も目立っています。

一方、天然林には広葉樹が多く生育し、昭和三十年代までは木炭や薪(家庭の燃料)と

して各地で盛んに生産され、現金収入源として山村の重要な産業の一つとなっていました。しかし、高度経済成長の昭和四十年代に入ると化石燃料に圧されて薪や木炭の需要は激減し、広葉樹の利用は主にキノコの原木や製紙用パルプの原料に移って行きました。そのパルプ材も輸入材が大半を占めるようになり、現在では、四季の姿を映す自然(二次林を含む)、環境保護林として愛されています。

このほか、里山の広葉樹林は、農業を営み人々の生活を支えるためには必要かつ欠かせない森林でもありました。秋に落葉すると家畜の敷料として、また堆肥として農業に利用されてきました。さらに、生活の身近に生育していた多種多様な広葉樹は、それぞれの利点欠点を知り、また経験から学び、その特性を活かした利用方法が生活の中で代々受け継がれていました。ケヤキは堅くて腐朽に強いため、神社仏閣の建築材に多く使用され、人々の心を癒しています。また、食器やお盆などとして生活の中に溶け込んでいます。ナラはブナ科の植物で、日向の乾燥した所に良く生育し、秋早くドングリの実が落ちてリス、ネズミ、クマ等、多種の森の動物たちの食糧となっている傍ら、リスやネズミ、カケス等によって運ばれたドングリは、その年の秋には根を出し、春には葉が出て生育します。大木となったミズナラは建築材として、

また内装材として利用されたりしています。サクラは、以前は敷居に使われ、長年利用しているとツヤが出て良く好まれていたが、今では主に木工作材として利用されています。

キハダ、クリ、ホウ、ミズキ、ミズメ、クワ等の木材が市場に出荷されると、銘木業者さんが思いがけない価格で買っていただきます。

木材の性質や価値に精通した専門の業者さんに利用されることは、自然(森林)の恵みを有効に活用することになります。また、山歩きには、木材の価値を知って森林を見るのも良いと思います。

(南内山林業 内山右之助)



人気のあるミズキの丸太

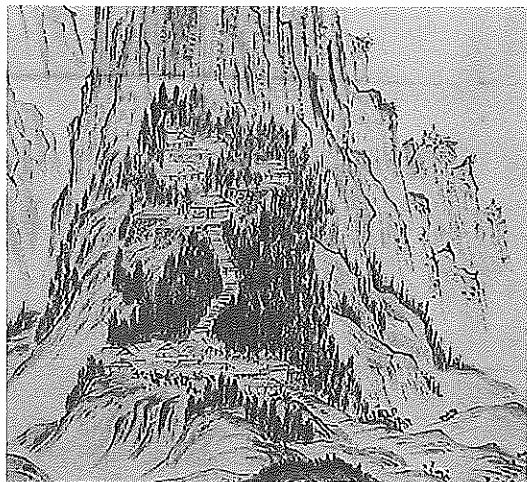


図-1 白雲山と妙義神社 一部加工(1860年)

富岡製糸場は、明治五年(一八七二年)、明治政府が日本の近代化のために最初に設置した模範器械製糸場である。以前、本誌で、岩島村(現東吾妻町)から建築材料として通直な松を運んだこと、富岡市周辺のスギなどが伐採されたことを紹介した。

富岡製糸場のホームページに、「中心となる材木の杉は妙義山、(略)から集めました」と記載されている。今回、妙義山のスギについて、伐採された場所等について調査した。

林源次郎が、一八六〇年に描いた絵(図一)(一)には、妙義神社に樹木がある。また、「製糸場所用日記」(2)に明治四年三月「妙義山ニ至リ(略)古来杉ノ名所ニテ大材無数」との記述があり、同年に妙義社并朱印地(寺

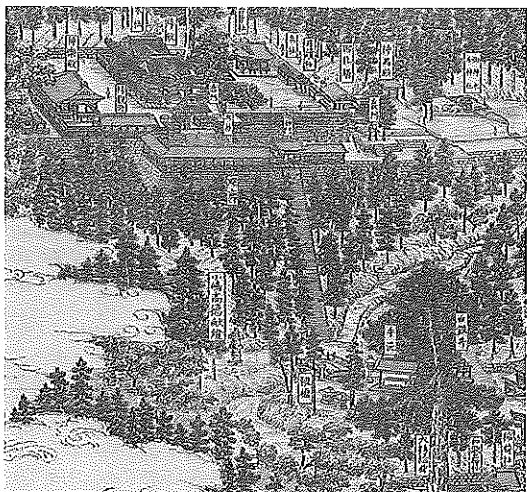


図-2 上野国妙義山真景 一部加工(1897年)

社領)ニテ伐木」の文書(2)がある。

次に、霜鳥巴凌著「上野国妙義山真景」(一八九七年)群馬県立図書館資料(図一)によれば、妙義神社周辺にはスギと思われる樹木が描かれている。明治四年(富岡製糸場建設の前年)に伐採され、その後、植栽されたと仮定すると、そのスギは二五年生程度の林齢と推察される。

写真は現在の妙義神社のスギ林である。明治四年の伐採直後に植栽したとすると、145年生前後、太い木を測定したところ、胸高直径は101cmで、樹高は54mあり、天然秋田スギ(58m)に迫る高さであった。

以上のことから、富岡製糸場建設のため、妙義山にある妙義神社のスギが伐採されたこ

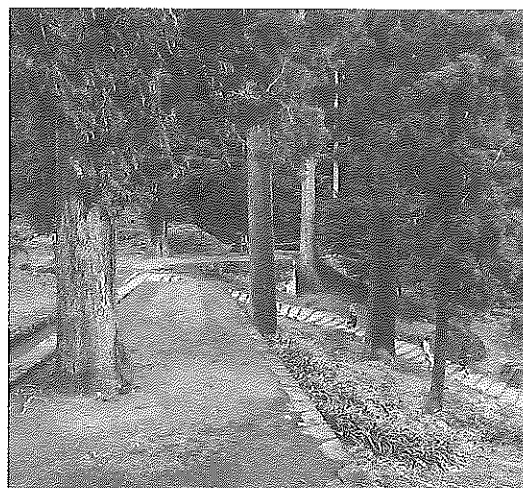


写真 妙義神社のスギ林 筆者撮影(2016年)

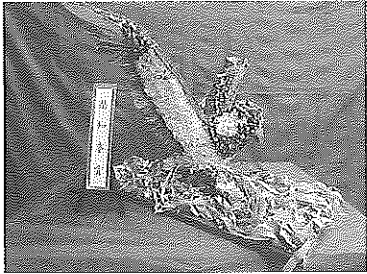
とがわかる。一度、伐採されたが植林され、現在はスギの巨樹が神々しい雰囲気醸し出している。

歴史を紐解くことにより、植栽することの必要性を感じた。現在、妙義神社では、スギの植栽木が見当たらないため、将来の森林景観を考慮した植林が必要と思われる。

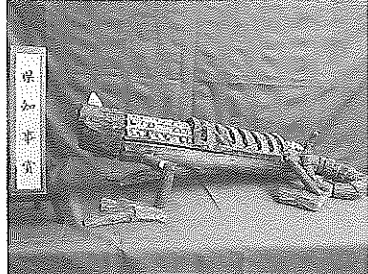
- (1) 絵で見る近世の上州 下巻(一九九五年)
青木裕 みやま文庫
- (2) 富岡製糸場誌(一九七七年) 富岡製糸場誌
編纂委員会 富岡市教育委員会
- (桐生森林事務所 小島 正)

トピックス

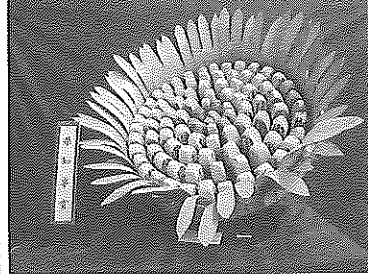
■県内の小・中学生に「木材の良さ（温かさ・加工しやすさ等）」を知ってもらうため、木工工作コンクールを開催しました。群馬県知事賞受賞作品は次の三点です。



「魚を捕らえる鷹」
高崎市立中川小学校
猪内 孔盟 (6年)



「カレンダーカメレオン」
安中市立碓東小学校
田中 陸 (5年)

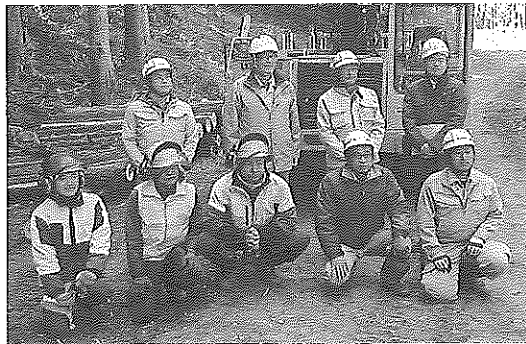


「しあわせなひまわり」
吉岡町立明治小学校
木暮 陽野 (3年)

第四十三回 群馬県児童 生徒木工工作コンクール

◆平成30年11月28日(水)～12月1日(土)まで、県庁1階県民ホール北側にて作品展示が行われ、延べ1,380人の来場がありました。

今回の視察対応に当たり関係機関の多くの方に多大な協力をいただきました。この場をお借りして厚く感謝申し上げます。



間伐現場での記念撮影

平成30年11月24日(土)に高鳥農林水産副大臣の県内視察が行われました。川上の現場として、沼田市岡谷町で利根沼田森林組合が行う搬出間伐施行地と、川中の現場として渋川県産材センターを見学いただいたほか、川場村の木質バイオマス発電施設、発電の廃熱を利用したマンゴー栽培施設、道の駅川場田園プラザも見学され、それぞれの現場や施設では、説明を行う職員に多くの質問をされていました。視察後は「林業の予算確保につなげられるよう応援したい。」と話されており、意義深い視察になったことと思います。

高鳥農林水産副大臣の 県内視察が行われました

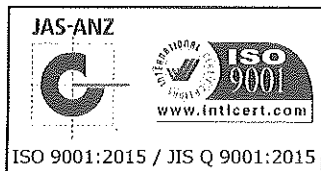
群馬県農林水産業関係機関成果発表会
群馬県農林水産業関係機関による最新の研究や普及活動についての発表会を行います。林業分科会では、獣害対策に関する研究成果をはじめ、普及活動、きのこ栽培技術、種苗・木材に関する研究成果をご紹介します。また、県民ホールにて、パネル展示を行います。多くの方のご来場をお待ちしております。
日時：平成31年2月6日(水)
午前10時～午後4時
場所：県庁28階 281会議室(林業分科会)
問い合わせ先：林業振興課きのこ普及室
TEL027・226・3235

きのこ品評会
群馬県産きのこの品評会を開催します。2日間の日程で、1日目は審査、2日目は表彰式・展示品の即売・きのこ汁の試食等が行われます。展示品の即売では、厳選されたきのこをお買い求め頂けますので、是非足をお運び下さい。
日程：平成31年1月22日(火)・23日(水)
場所：群馬県庁1階 県民ホール北側
問い合わせ先：林業振興課きのこ普及室
TEL027・226・3234

お知らせ

勝野建設株式会社

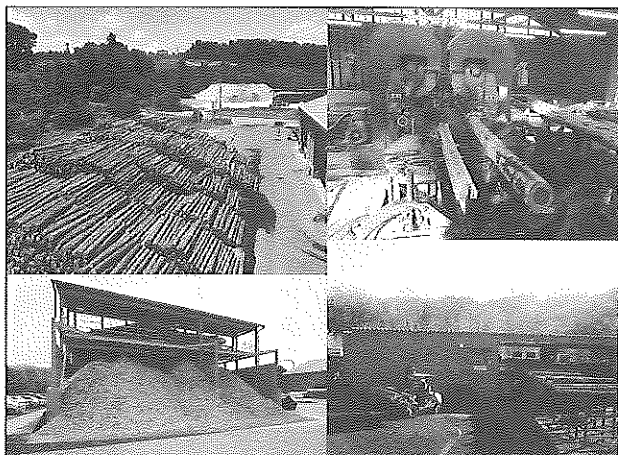
代表取締役社長 勝野政和



本社 / 〒370-3608

群馬県北群馬郡吉岡町大字下野田592番地

電話 0279(54)3551(代) FAX 0279(54)3494



A・B・C材全量一括・定額買取システムで
森林組合の集約化施業推進・素材生産量増大を支援!!

JForest 群馬県森林組合連合会
代表理事会長 八木原 勇治

本所 前橋市上大島町182-20 ☎ (027)261-0615(代)
渋川県産材センター
渋川市白井乙佐又1236-4 ☎ (0279)22-5000(代)

～ 人づくりから森林づくりまで

群馬の山を守り、確かな技術で地域に貢献する ～

一般財団法人 群馬県森林・緑整備基金

〒370-3503 群馬県北群馬郡榛東村大字新井2935

群馬県林業試験場 別館内

TEL 027-386-5901 FAX 027-386-5902



株式会社 萩原工業

代表取締役 萩原哲也

〒379-0217 群馬県安中市松井田町土塩499

TEL (027)393-1480 FAX (027)393-1414

URL <http://hagimoku.co.jp/>

・平成三十年度森林土木写真コンクール最優秀賞受賞作品
・タイトル 「落石防護柵」
・撮影場所 甘楽郡南牧村大字大塩沢(関河原)地内
・撮影者 富岡森林事務所 元氏 元也 さん